

臨床美術学会 第13回大会2022 報告

TOPICS

フィンランドとの交流報告ほか

協会からのお知らせ

指定校・芸術造形研究所からの
お知らせ



アートプログラム
「ハンドフラワー」

特集

—子どもの成長にアートが果たす役割とは—

子どもとアート

特集

—子どもの成長にアートが果たす役割とは—

子どもとアート

本人の
視点

現在、(株)博報堂で“共創プロデューサー”として活躍する浜野さん。子どもの頃に浦和造形研究所に通っていた経験が、今の仕事にどう活かしているのかお聞きしました。



株式会社博報堂
浜野良太さん

2003年慶応義塾大学経済学部卒。2007年株式会社博報堂入社。「共創で社会を創造する」を信条に、社会と企業の課題を一度に解決することを目指している。2017年経済産業省プレミアムフライデー運動の企画推進/2022年国内最大級、ファッション&デザインの祭典東京クリエイティブサロン等、様々な大規模プロジェクトで中心的立場として活躍中。



おじいさんの
似顔絵 (小学
1年時の作品)



廃物彫刻 (小学
2年時の作品)

子供の頃、造形教室で答えがないものに対して向かっているとワクワクしていました。それが大人になって、「企画をする」という仕事に生きています。

3歳くらいから中学まで、浦和造形研究所(臨床美術を開発した故・金子健二氏が始めたアート教室)に通い、金子先生や蜂谷先生の授業を受けていました。絵や造形が上手に創造できたとは思っていませんでしたが、毎週、ワクワクしながら教室に通っていました。捨てられた自転車のハンドルやパソコンの基盤、そしてトイレのタンクの廃材を組み合わせて作った「廃物彫刻」や、色をたくさん混ぜて描いた「人物画」、今でも家の表札は、当時作った私の鋳物の作品です。石膏で本物そっくりの卵を作って、いたずらで“石膏卵”を冷蔵庫に入れておいたら、翌朝、母が本物の卵と間違えて茹でてしまったり…(笑)。正解はなく、自由な発想で、ワクワクする作品を作ることを教えられた気がします。

現在、広告代理店で企画営業の仕事をしています。社内外のメンバーを束ねて、課題を解決するための企画を考えて実行していく立場です。通常、広告会社の仕事というものには、業界の商慣習など、一定のルールなどがあり、そのルールに則りながら、「答え」を導き出していきます。

例えば「この健康飲料を売りたい」とい

うのがクライアントの要望だったとします。通常では、健康的な印象のタレントを起用したCMを作って健康的なイメージを強調したり、健康意識を訴求するような店頭キャンペーンを組み立てるなどが一般的です。

しかし、元来、新しい発想をすることが体に染み付いている私にとって、そういう既定路線で企画をするのは、あまりワクワクしないんですね。誰も考えたことのないような、見たことのないような企画、もっといろいろなステークホルダーを組み合わせて、楽しい展開ができるのではないかと考えます。

これはあくまでたとえ話ですが、ある飲料メーカーは健康飲料を売りたい。ある不動産会社では、ヘルスケアタウンの計画している。官公庁では、健康寿命を延ばそうと企画している。接点がない三者をwin-win-winの関係で結びつけたら、共に新しいものを創り出すことができるかもしれない…。

私がこういう発想をするのは、子どもの頃に通った造形研究所の影響が大きいと思います。作品を作る過程で、上手に作ることよりも新しい発想を褒めてもらったこと。今で言う「ゼロイチ」(0から1を創り出す力)です。その時の腹の底からワクワクし、全身からアドレナリンが出る感じ、

評価されるためにやるのではなく自分が楽しいと思ったことに向かって突き進む感覚。心の底から湧き上がってくる気持ちよさ。それらの経験が活きていて、既成概念や過去のルールに囚われずに発想することができるのです。答えが決まってない仕事をやりたいというワクワクする気持ちは、あの頃と一緒です。

もちろん答えが決まっていないのですからうまくいかず、失敗も多いですが、私はあまり失敗だと思っていない。レジリエンス(回復力)ということが、昨今よく言われますが、失敗してもこれをきっかけにもっといい方向に行くかもしれないと思えるし、新しいことをやるのが楽しいんです。

こういう感覚は、私は学校教育で教えることは、難しいのではないかと考えています。でも、今の時代、自分で答えを作っていく能力がものすごく求められています。特に社会に出てから、より必要とされると思います。私にとってはその発想の原点というか、ワクワク感を大事にするんだよと教えてくれたのが造形研究所で、その背景にある臨床美術の考え方だったのだと思っています。

多様化した社会において、既存の「正解」ではなく新しい発想や自ら答えを出す力が求められる今、「アート思考」が注目を浴びています。では、幼少期のアート体験が子どもの成長にどんな影響を与えるのか、将来どのような効果をもたらすのか。幼少期に造形教室に通っていた本人、保育園でアートを取り入れている保育士、子ども造形教室ダ・ヴィンチクラスの保護者、それぞれの視点からお話いただきました。

保育士の視点

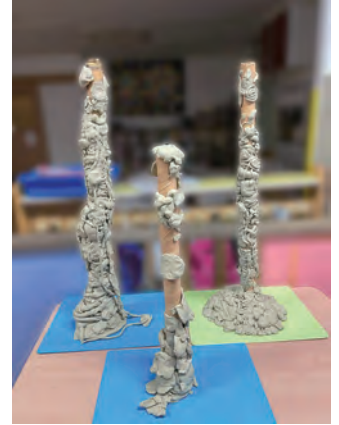


保育の現場で日々、子どもたちにアートを実施している嶋田さん。継続して行なうなかで子どもたちにどんな変化があるのかお聞きしました。

保育士 (社会福祉法人緑伸会 保育園加賀のこども勤務)
臨床美術士3級

嶋田篤也さん

グラフィックデザイナーを経て臨床美術士の資格を取得。(株)芸術造形研究所でダ・ヴィンチクラスを担当した経験から保育士の資格を取得し、保育の世界へ。都内の保育園で9年間勤務し、園長に就任。現在は東京都板橋区の「保育園加賀のこども」で保育士として勤務しながら子ども達に臨床美術を実施している。



サララップの芯に粘土を巻いて

「作る」という行為がその子の「生活を作る」ことに繋がる。そう実感しています。

以前に勤めていた保育園では、子どもの日やクリスマス、卒園といった季節の行事に関するアート制作のほか、日常的に制作の時間(臨床美術ではない)を組み込んでいました。そこに臨床美術のエッセンス(考え方)や鑑賞会、アートコミュニケーションを織り交ぜていったことで、チャレンジする気持ちや自己肯定感、他者を認めることを子どもたちが自然と身につけていったように思います。

例えばサララップの芯に粘土をくっつけて作る作品(右上写真)では、共同制作をすることで、支える係など役割分担が生まれ、友達と協力することを覚えます。相手のやりたいことを感じながら作っていくんですね。また、最初はただ粘土を伸ばしていくだけだった年少さんが、年長さんのやり方を見て「粘土を細くして巻けばいいんだ」と新しいやり方を覚えて、回を重ねるごとに表現がどんどん変わっていく。倒れそうで倒れない形にしてみるとか。それもチャレンジなんですよ。失敗してもいいものじゃないですか、表現って。だからみんなめっちゃチャレンジするんですよ。それが結局、アート以外の、運動や生活発表など他の分野での成長にもつながっていています。

子どもたちはアートとは思っていないんですけどね、表現の一つというか。

他に印象的なこととして挙げられるのは、喧嘩がものすごく少ないことです。もちろん言い合いをすることはありますが、手は出ない。まず相手の思いを聞こうとするんですね。イライラしているのは分かるけど、最後まで聞こうとする姿勢がある。それは鑑賞会や制作の中で、お互いを認め合う、思い合うことからきていると思います。

僕は幼児を担当することが多かったのですがその経験から言うと、3、4歳できっかけをあげることが大事だと思います。失敗込みでどれだけたくさん実験させてあげるか、色々なプロセスで実験遊びをさせてあげて、5歳児である程度自分たちが満足できる作品が作れるように持っていく。そうすると、今まで何かに自信が持てないとか、突出したものが無い子どもたちでも、「絵が描きたい」「こういうことがやりたい」といった意欲や自分軸が出てくるように思います。

コロナの時もそうでしたが、病気や何らかの事情で外に出られない時に、創作することが日常に落とし込まれていると、家庭でもごく普通にできるんです。保護者の方たちの話では、心の拠り所があったから外

に出られなくてもフラストレーションが溜まって暴れたりすることもなく、黙々と何かを作ったりして普段と同じように過ごしていたそうです。「作る」という行為が、その子の「生活を作ること」に繋がっているんだな、と実感しましたね。

保育の世界では、「五領域」という指針(保育所や幼稚園での教育目標や、保育を行なう際の視点を表わしたもの。健康、人間関係、環境、言葉、表現の5つ)があります。子どもたちと継続してアート制作を行っている中で、創作活動をすること、クリエイティブな生活を送ることでこれらすべてが網羅できるんじゃないかと気付いたんです。「作る」という、本来人間が持っているものを刺激してあげること、それを唯一数字などで評価されない幼少期に行うことで、自己肯定感やチャレンジ精神、他者を認める気持ちが育つのではないかと思います。



卒園制作/自分たちのクラスをイメージして作った「けいじばん」

保護者の視点

幼稚園から小学校にかけて、東京・高輪のダ・ヴィンチクラスに通っていた子どもたちのお母さん3名に、クラスで学んだことや、現在、中・高生になったお子さんに活きていることをお話しいただきました。



村橋さん

受講生：こはるさん。現在、高校生。



中嶋さん

受講生：悠人くん、崇人くん。現在、高校生。



米里さん

受講生：太陽くん、航希くん。現在、高校生と中学生。



悠人くん、崇人くん、こはるさん／当時の制作風景



こはるさん／「そら豆を描く」



航希くん／ザリガニを描いた作品と一緒に

お子さんがダ・ヴィンチクラスで学んだこと



村橋さん

作る喜びを覚えたこと、人と違っていいということ

教室で作った作品を家で飾っていて、来る人来る人にコメントしてもらっていました。それが娘にとっては嬉しかったし自信になって、作る喜びを感じていたようです。また、同じテーマでも出来上がる作品が人によって全然違って、その「違い」が楽しいというか、「違っていい」ということをすごく体感していたと思います。



中嶋さん

絵を美しく描くことよりも、自分の想像力を膨らませること

海の絵を描いた時に、色をたくさん重ねて茶色っぽくなってしまったことがあったのですが、先生に「最後まで自分の納得のいく色を塗ればいいんだよ」と言ってもらって。自分を認めてもらったことで、創作意欲が高まり、想像力を膨らませて描くことの楽しさを覚えたようです。そうした経験が活きて、小学校にあがってから絵で賞をもらったこともありました。



米里さん

自由に表現する楽しさ、自分らしくあることの大切さ

まだ言葉で自分を表現することが難しかった幼少期では、作品を通して自己表現を行っていたように思います。そんな中、周りの方から作品に対して肯定的な評価と嬉しい言葉をかけてもらったことによって、自由な表現力と自信が身についたように思います。人と違うことが間違いではなくて、「自分は自分らしくていい」ということを、作品を通して教えてもらいました。

今のお子さんに活きていること



村橋さん

他者を受容し、フラットな人間関係を築ける

娘はいま高校生で海外留学中なのですが、国や年齢、性別といった枠を取り払って「個」をちゃんと見てコミュニケーションをとっているように感じます。80代のお友達がいたり、自分とは考え方が全然違う人とも仲良くなっていて。それはダ・ヴィンチクラスで自分を肯定してもらった経験や、「違い」を体験したことが大きくて、「色々な人がいて当たり前」ということが基本になっているからだと思います。



中嶋さん

物事を多面的に見られるようになった

長男は高校の選択授業で工芸をとったのですが、それはダ・ヴィンチクラスでの楽しい思い出や経験があるからでしょうね。また、何か一つのことをするにしても丁寧にできるようになったと思います。例えばスケッチする時にすごく繊細な線を引くんですよ。アートとは関係ないところでも、数学を立体的に考えたりとか、物事を多面的に見ることができるようになったのではないかと思います。



米里さん

自己肯定感、決断力

何かを決める時に迷いがなくなりました。それは幼少期の大事な時期に、自分らしさを認めてもらった経験が大きいかと感じています。これからは自分を出していくことが大事な時代に向かっていると思うので、幼少期のこの経験は将来的にも良かったと感じています。兄弟それぞれで性格は違いますが、ダ・ヴィンチクラスでの経験は、2人共に自己形成に大きく影響していることは間違いなくと思います。

—インタビューを終えて—

幼少期にアートを継続的に体験することによって、アートに直結する「表現力」から、自己肯定、他者受容、答えのない社会を生き抜く力まで、人間形成においても様々な効果があることが伺えました。もちろんアートは一つの要素であり、他にもたくさんの要素が影響し合っただけで子どもたちの成長につながります。しかし答えが1つではないアートだからこそ、その過程で試行錯誤が必要となり、“自分なりの答えを導き出し発信する力”を自然と育むことができるのではないかと感じました。(編集部)

臨床美術学会 第13回大会2022 報告

大会テーマ「アート思考×臨床美術 ～いま、社会に求められるアートの役割～」

昨年に引き続き、オンライン形式で2022年11月19日(土)・20日(日)に第13回臨床美術学会大会が開催され、103名が参加しました。1日目は基調講演とシンポジウム、2日目は研究発表が行われました。合わせて1日目の大会終了後には、任意参加で全国交流会も開催され、臨床美術士同士のコミュニケーションの機会も設けられました。

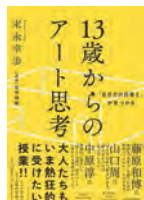
《 基調講演 》

基調講演には、『13歳からのアート思考』の著者である末永幸歩氏をお招きし、「自分なりのものの見方で探求するアート思考の可能性」という演題でご講演いただきました。

アート思考とはなにか、未来を担う子どもたちへの教育について、また、アート作品を「自分なりのものの見方」で鑑賞して「自分だけの答え」をつくるワークショップも行われ、大人が子どもから学ぶことについて、実体験を通して考えるきっかけとなりました。



末永幸歩先生 / 『13歳からのアート思考』
(ダイヤモンド社)



《 シンポジウム 》

シンポジウムは東京家政大学の和田明人氏を座長として、シンポジストには京都造形大学の大野木啓人氏、東京家政大学の保坂遊氏、臨床美術士であり、Ms'palette主宰の丸本真代氏の3名が登壇しました。

大野木氏は、現代社会が否応なく追い詰めようとするシステム化と人間疎外化という状況の中で、臨床美術の活動(アート)は人間に本来備わるべき能力を呼び戻し正常な人間にリセットするために、最も自然な形で正常化を目指すことが可能なものであると述べました。

保坂氏は、現代美術の挑戦的思考が予測不能な未来へ対する課題解決への取り組みに寄与すること、また臨床美術の「感性を引き出し、自己肯定を高める」アプローチは、次世代を担う子どもたちをはじめ、様々な方の内在する能動性を伸長することができるのではないかとの見解を示しました。

丸本氏は、自身の活動の中から発達障害の子どもたちをとりまく環境や臨床美術の関わり、またコロナ禍という状況が子どもたちへ及ぼす影響や変化に触れ、臨床美術の今後の広がりや可能性を述べると共に、エビデンスの確立に向けての課題や提言がありました。

《 研究発表 》

2日目は研究発表が行われ、中国北京在住の臨床美術士、葦暁蕾氏(BUDDING ART STUDIO)、東北福祉大学 三品竜浩氏、東京家政大学 保坂遊氏の3名の発表がありました。

葦暁蕾氏は、臨床美術のアートプログラム制作体験からスタートし、次第に個々の自発的な表現活動に入っていった少年4人の創作活動の記録が報告されました。

三品竜浩氏からは、メディカルケアノ門で行われた「リワークプログラムにおける臨床美術の有効性の検討 ～テキストマイニングによる分析を通じた臨床美術プログラムの検証～」について報告され、うつ病などからの職場復帰プログラムにおける臨床美術の有効性について語りました。

保坂氏からは、臨床美術の新しい効果指標の開発と運用システムの構築、汎用化の報告がされました。

基調講演からシンポジウム、研究発表までを通して非常に密度の濃い内容となり、新たな臨床美術の側面や今後に向けての課題など、自身の活動と照らし合わせながらそれぞれに考える機会となりました。

1

フィンランドとの交流

2月、フィンランドのラウレア応用科学大学の教授3名が来日されました。臨床美術を基にした「エンカウンターアート」をフィンランドで推進されており、大久保伸一氏（芸術造形研究所代表取締役社長）や大城泰造氏（東北福祉大学准教授）を交えて懇談が行われました。また、エンカウンターアート、臨床美術それぞれの最新状況やアートプログラムが紹介され、両国でのさらなる発展に向けて活発な意見交換が行われました。詳細は次号、『JCAA NEWS 65号』（今秋発行予定）でご紹介いたします。



2

なんでも談話室のご案内

日本臨床美術協会では、会員の皆様と講師が直接話をする「なんでも談話室」をオンラインで開設しています。相談や雑談、何でも構いません。お一人20分と短い時間ですがお話しませんか？毎月、担当講師と日程のお知らせをメールマガジンで配信していますので、どうぞお見逃しなく！

Topics

会員のみなさまに特にお知らせしたい情報をピックアップしてお届けします。

3

SNSで情報発信しています！

日本臨床美術協会、芸術造形研究所では、それぞれまたは共同でSNS(Facebook、Twitter、Instagram、YouTube)を開発しています。作品画像、イベントのお知らせ、ちょっとした臨床美術のヒントなど様々な情報を発信していますので、ぜひ覗いてみてください。

Facebook

臨床美術ひろば



芸術造形研究所



Twitter

芸術造形研究所 / 日本臨床美術協会



Instagram

日本臨床美術協会



YouTube

芸術造形研究所



表紙掲載 アートプログラム紹介

この春、BESTシリーズに新たに加わったおススメのアートプログラムをご紹介します！

BESTシリーズ 最新アートプログラム 【E-51】「ハンドフラワー」

完成作品サイズ：
B4サイズ（平面）



手袋をした手でアクリル絵の具をのばして花を描きます。手の形や動きがダイレクトに花の形に表れる、感覚的なアートプログラムです。透明な塩ビ板に描くので、裏返すことでガラス絵のように美しく仕上がります。手に伝わる絵の具の触感と合わせて、楽しい制作体験となるでしょう。

アートプログラム販売中！

▼お申し込みはこちらから

<http://www.zoukei.co.jp/shop/artprogram/>



協会からのお知らせ

2023年度 オンライン定期総会のお知らせ



2023年度オンライン定期総会を開催いたします。

★出欠の連絡をお願いします

●日時

2023年5月28日(日) 16:00~17:30

●議案

- (1)2022年度事業報告と収支決算について
- (2)2023年度事業計画と予算について
- (3)その他

今年度より、オンライン上で出欠連絡が可能となりました。QRコードもしくは、同封しております「定期総会出欠はがき」にて5月7日(日)までにご回答をお願いいたします。尚、はがきにてご回答の場合には、個人情報保護のため同封の保護シールを貼ってご返送ください。また、欠席の場合は、委任状の提出をお願いいたします。委任状を提出すると、出席者と同時に資格更新制度の単位取得対象となり、取得単位数は5単位となります。

2023年度 会員証について

2023年2月28日(火)までに年会費をお支払い頂いた方に、2023年度会員証を同封させていただきます。

尚、コンビニエンスストア専用支払伝票にてお支払いされた場合、入金の確認までお時間がかかる場合がございますので、確認出来次第、会員証を送付させていただきます。

※会員証の有効期限は、2023年4月1日~2024年3月31日です。

《会員証の確認と取扱いについて》

- ①ご自身の会員証の記載内容(お名前・認定級・会員番号・次回資格更新日)について、相違がないかご確認ください。
- ②「会員証」はストラップケースに入れ、臨床美術を実施される際、交流会・研修会等に参加する際には、認定バッジと共に必ず着用してください。
- ③紛失等による会員証の再発行には手数料550円(税込)と、別途送料がかかります。

2023年度 年会費(お支払いがお済みでない方)

年会費をお支払いがお済みでない方は下記までお早めにお振込みください。年会費が未納の場合、臨床美術士の名称を名乗れなくなり、協会会員の特典が受けられなくなります。

●年会費 11,000円(消費税込み)

特定の「振り込み用紙」はございませんので、ATMまたは窓口にてお振り込みください。

郵便局からの場合

郵便振替口座 00150-4-740354

他金融機関からの場合

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019) 当座 0740354

特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

*通信欄に「氏名」「会員番号」をご記入ください。

2023年度 講座等について

協会主催の講座につきましては、メールマガジン、ホームページ等でご確認ください。

指定校からのお知らせ

ひろしま美術研究所

【申込窓口】ひろしま美術研究所

●研修会

TEL: 082-506-3060 E-mail: ach@art-hiroshima.com

講座名	対象	日程	申込締切日
最新アートプログラム研修会 No.50「極楽鳥花を描く」	4級取得以上	5/28(日) 10:00~12:00	5/12(金)
色鉛筆アートプログラム研修会 No.39-44	5級取得以上	5/28(日) 13:30~15:30	
最新アートプログラム研修会 No.52「ハンドフラワー」	4級取得以上	7/9(日) 10:00~12:00	6/23(金)
CAC 研修会 No.25-27	5級取得以上	7/9(日) 13:30~15:30	

●臨床美術士養成講座

講座名	日程	申込締切日
5級 2023年7月期	7/17(月祝)・7/23(日)・7/30(日)・8/11(金祝)・8/20(日)	7/4(月)
2023年12月期	12/26(火)・12/27(水)・1/8(月祝)・1/14(日)・1/28(日)	12/12(火)

東北福祉大学 地域創生推進センター
地域創生推進室 仙台元気塾

【申込窓口】東北福祉大学 地域創生推進センター

地域創生推進室 仙台元気塾 TEL: 022-742-2886

●臨床美術士養成講座

講座名	日程	申込締切日
5級 2023年10月期	日程未定	-
4級 2023年5月期	5/27(土)・5/28(日)・6/11(日)・6/25(日)・7/9(日)・7/22(土)・7/23(日)	5/12(金)

芸術造形研究所からのお知らせ

●臨床美術士養成講座

	講座名	期間	会場	申込締切日	
通学	2023年6月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全6日間	会場：東京	6/7(水)	
	2023年短期集中 夏季特別クラス	全5日間	会場：東京	7/20(木)	
	2023年11月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全6日間	会場：東京	10/18(水)	
	2024年2月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全6日間	会場：東京	1/24(水)	
	2023年7月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全9日間	会場：東京	6/21(水)	
	2023年短期集中 秋季特別クラス	全7日間	会場：東京	8/31(木)	
	2023年10月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全9日間	会場：東京	9/20(水)	
	2024年1月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全9日間	会場：東京	12/20(水)	
3級	2023年4月期 土曜日クラス	約7ヶ月	会場：東京	4/8(土)	
	2023年11月期 金曜日クラス	約7ヶ月	会場：東京	10/27(金)	
通信	2023年5月期 5/26(金)・5/27(土) スクーリング(オンライン)	2日間+5カ月	Zoom開催	4/27(木)	
	2023年6月期 6/16(金)・6/17(土) スクーリング(オンライン)	2日間+5カ月	Zoom開催	5/18(木)	
	2023年7月期 7/14(金) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場：東京	6/22(木)	
	2023年9月期 9/1(金)・9/2(土) スクーリング(オンライン)	2日間+5カ月	Zoom開催	8/3(木)	
	2023年10月期 10/7(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場：京都	9/14(木)	
	2023年12月期 12/22(金)・12/23(土) スクーリング(オンライン)	2日間+5カ月	Zoom開催	11/22(木)	
	2024年1月期 1/13(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場：東京	12/21(木)	
	2024年2月期 2/16(金)・2/17(土) スクーリング(オンライン)	2日間+5カ月	Zoom開催	1/18(木)	
	2023年8月期 8/26(土)・8/27(日) スクーリング(対面)	2日間+6カ月	会場：東京	8/3(木)	
	2023年11月期 11/25(土)・11/26(日) スクーリング(対面)	2日間+6カ月	会場：東京	11/2(木)	
2024年3月期 3/16(土)・3/17(日) スクーリング(対面)	2日間+6カ月	会場：東京	2/22(木)		
3級	2023年6月期 6/2(金)・6/3(土)・10/27(金)・10/28(土) スクーリング(対面) 7/29(土)・9/2(土)・12/16(土)・1/27(土) スクーリング(オンライン)	約9ヶ月	会場：東京/ Zoom開催	5/11(木)	
オンライン	2023年5月期 火曜日クラス 日曜日クラス	各全6日間	Zoom開催	4/20(木)	
	2023年7月期 イブニングクラス(約週1回)	全18日間	Zoom開催	6/22(木)	
	2023年8月期 水曜日クラス 土曜日クラス	各全6日間	Zoom開催	7/27(木)	
	2023年10月期 金曜日クラス 日曜日クラス	各全6日間	Zoom開催	9/28(木)	
	2024年1月期 金曜日クラス 日曜日クラス	各全6日間	Zoom開催	1/11(木)	
	2023年7月期 日曜日クラス 金曜日クラス	各全9日間	Zoom開催	6/22(木)	
	4級	2023年10月期 火曜日クラス 土曜日クラス	各全9日間	Zoom開催	9/14(木)
	2024年1月期 火曜日クラス 土曜日クラス	各全9日間	Zoom開催	12/2(木)	
	2級	2023年5月期 5/19(金)・6/16(金)・8/24(木)・10/5(木)・12/15(金)・ 2/15(木)・3/8(金)	1~2年	Zoom開催	4/20(木)

※東京校では上記講座の他、感性アートゼミ(ハイブリッド、通信)等の各種講座、研修会も開講しています。
詳しくは芸術造形研究所のホームページでご確認いただくか、教務担当までお問合せください。

【申込窓口】芸術造形研究所

●通学講座・オンライン講座 TEL: 03-5282-0210 E-mail: school@zoukei.co.jp

●通信教育 TEL: 050-6865-3702 E-mail: tsushin@zoukei.co.jp

※2023年6月より通信教育の電話番号が変わります。⇒TEL: 03-5282-0210

※予定されている講座につきましては、中止または変更になる場合があります。予めご了承ください。